

## 平成29年・大阪支部「春季歴史探訪の会」開催報告 (奈良飛鳥の古代石遺跡を訪ねて探訪する)

今回は、古代日本史の舞台・飛鳥を訪ね、ミステリーな古代石遺跡を中心に、有名な壁画古墳である高松塚古墳、キトラ古墳なども巡り、日本創成の地、飛鳥の魅力を体感するツアーを企画いたしました。去る4月22日(土)、総勢39名(内、ご夫婦5組)が、近鉄飛鳥駅前に集いました。ご参加者の中には千葉・松戸市からの西田公也氏(K44)や広島福山市、大津市、姫路市、三木市などから参加される方々もおられ、晴天にも恵まれて、大変華やかなツアーとなりました。

午前は徒歩で①岩屋山古墳、②牽牛子塚古墳、③吉備姫王墓、④欽明天皇陵、⑤カナズカ古墳、⑥鬼の俎・雪隠、⑦天武・持統天皇陵、⑧高松塚古墳を巡りました。各遺跡の説明は横山(K47)が担当しましたが、日本創成の地ということで、参加者のご質問の内容にも関心の高さがうかがえました。また桜の花は散っていましたが、キクモモ、ハナミヅキ、レンゲなど各種の花が散策路に咲き乱れ、春風に吹かれて、心地よい散策となりました。②牽牛子塚古墳は約80トンの凝灰岩を削りぬいた合葬墓の石槨です。最近の調査では八角墳で、当初は約7,200個の切石がピラミッド状に積まれていたと推定され、考古学会では石の女帝である斉明天皇の墳墓とされている古墳であり、そこに使用された石の規模に驚きました。⑦天武・持統天皇陵は藤原京の朱雀大路を真南に下る延長線上にあり、持統天皇(女帝)の墓領域を含めたスケールの大きな藤原京都市計画造りに感心したものです。

午後は貸切バスにて⑨キトラ古墳、⑩益田岩船、⑪石舞台古墳、⑫酒船石遺跡、⑬飛鳥資料館を巡りました。何といても圧巻は益田岩船で、800トンと推定される巨大な石が山の中腹に置いてあり、昔からこの石造物の目的が色々推測されてきました。加工が難しい飛鳥石(石英閃緑岩)が使われていること、そして加工途中の石全体に大きなヒビがあることより、牽牛子塚古墳石槨を造る際の失敗作である可能性が最近指摘されており、やはり石の女帝・斉明天皇の夢の跡に相応しい遺跡であることを、認識しました。⑪石舞台に移動する時の野口の交差点では、小山田遺跡の横を通りましたが、ここは一月前に石舞台古墳を越える大きな方墳であることが確認され、小山田古墳と命名されたばかりであることが判り、明日香村では発掘が今でも着々と進められており、新しい発見が続いている実態があることが理解できました。⑫酒船石遺跡の酒船石は、酒や薬を作る装置の石であるとか、占いを行う祭壇であるとか、参加者の思い思いの意見が出され、飛鳥の謎は今でも中々解明できない点、その謎の解を各自が自由に思いめぐらす面白さも体感しました。

今回のツアーは飛鳥の石遺跡に絞って廻りましたが、それだけでも一日では廻り切れないほどの多くの見どころがあり、飛鳥寺、橘寺、他寺院遺跡、藤原京、万葉歌碑巡り等々、参加者はまた日を改めて他のテーマでの飛鳥巡りをしたいという思いを強くして、家路に向かわれました。

(記：横山 誠 K47)



天武・持統天皇陵前にて



益田岩船にて



酒船石にて